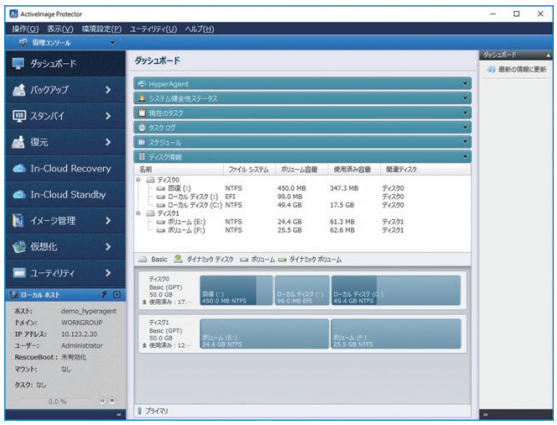
ActiveImage™ 2022 PROTECTOR

DATA SHEET — データシート —

ActiveImage Protector™ とは

直感的でスムーズな操作性で、持続可能な IT システムのバックアップを実現

ActiveImage Protector™は、物理・仮想・クラウド環境に対応し、OS、アプリケーション、データを含むシステム全体を丸ごとバックアップして確実に保護します。万一の障害時にも、バックアップから簡単な操作で迅速にシステム全体を復元できます。また、物理 / 仮想マシンのバックアップから、VMware、Hyper-V、KVM、Proxmoxの仮想環境へシステムを復元することが可能です。ハードウェアに依存せず、既存環境をそのまま仮想マシンとして起動できるため、サーバー更改時の移行作業の簡素化や、障害時の迅速な代替運用、検証環境の構築を効率的に実現します。
日本語の直感的で分かりやすいインターフェースを採用し、ウィザード形式によりバックアップ / 復元操作を容易に実行できます。リモート操作にも対応しています。



ライセンスと対応する利用環境は以下の通りです。

ライセンス	物理マシン	仮想環境	クラスター環境	データセンター	メガクラウド
ActiveImage Protector 2022 Server 1ライセンスでWindows Server OSの物理マシン1台使用可能	○	×	×	×	×
ActiveImage Protector 2022 Desktop 1ライセンスでパソコン1台使用可能	○	×	×	×	×
ActiveImage Protector 2022 Linux 1ライセンスでLinux OSの物理マシン1台使用可能	○	×	×	×	×
ActiveImage Protector 2022 Virtual 1ライセンスで仮想ホスト1台、仮想マシンは無制限で使用可能。エージェント / エージェントレス対応。Windows仮想環境のクラスター対応	○	○	○	×	×
ActiveImage Protector 2022 Server vPack 1ライセンスでホストを特定しない仮想マシンを最大5台まで使用可能。国内データセンターで稼働する仮想マシンでも使用可能	×	○	×	○	×
ActiveImage Protector 2022 Cloud 1ライセンスでメガクラウドのコンピューターを最大5台まで使用可能	×	×	×	×	○
ActiveImage Protector 2022 Cluster 1ライセンスで2ノード構成の1クラスター使用可能。同クラスターグループで3ノード以上の場合、必要なノード数の追加ライセンスを購入して運用可能。VMware ESXi環境でのHCI構成等では、Virtualを推奨	×	○	○	×	×
ActiveImage Protector 2022 IT Pro 特定の1名のエンジニアが、年間契約で台数 / 回数無制限で使用可能。インストール不可	○	○	×	×	×

各機能に対応しているエディションは、以下のアイコンで表記します。

SV = Server　DT = Desktop　LX = Linux　VI = Virtual
SP = Server vPack　CD = Cloud　CL = Cluster　IT = IT Pro

バックアップ

ホット バックアップ

SV DT LX VI SP CD CL IT

データベースやオープンファイル等、稼働中のサービスを止めずにバックアップを作成する、ホットイメージング機能を搭載。Windowsにおいては、OSに組み込まれているVSS（Volume Shadow Copy Service）と協調してホットイメージングを実行。

コールド バックアップ

SV DT LX VI SP CD CL IT

ActiveImage Protector™の起動媒体を使ってコンピューターを起動し、シャットダウンした状態のシステムボリュームをバックアップ。出荷前の、クリーンな状態（OSのインストール直後等）のバックアップイメージを作成。障害発生時にその状態を保存しておき、後で原因を調査する場合にも有効。

ディスク / ボリューム単位のバックアップ

SV DT LX VI SP CD CL IT

OS、アプリケーション、データを含むコンピューターのディスクまたはボリュームを、ディスクイメージで丸ごと高速にバックアップ。緊急時には、バックアップから複雑な操作を介さずに、迅速かつ確実にシステム全体を復元。

ファイル / フォルダー単位のバックアップ

SV DT VI SP CD CL

（Virtual / Server vPack / CloudはWindowsのみ）

特定のフォルダー / ファイルを指定してバックアップ。

共有フォルダー（CIFS）のバックアップ

SV VI SP CD CL

（Virtual / Server vPack / CloudはWindowsのみ）

ネットワーク共有フォルダー内のフォルダー / ファイルを指定してバックアップ。

バックアップから特定のファイル / フォルダーの除外

SV DT VI SP CD CL

（Virtual / Server vPack / CloudはWindowsのみ）

バックアップから除外したいフォルダー / ファイルを設定。

仮想マシンのエージェントレス バックアップ

VI IT

Microsoft Hyper-V、VMware vSphere、Linux KVM、Proxmox上の仮想マシンに、ActiveImage Protector™をインストールすることなくバックアップ。

増分バックアップ

SV DT LX VI SP CD CL IT

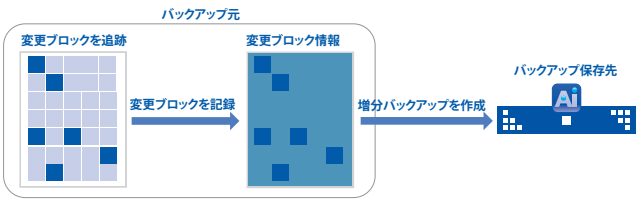
前回のバックアップから変更されたブロックのみをバックアップ。保存先の容量や処理時間を大幅に縮小するのに有効。



トラッキング ドライバー

SV DT LX VI SP CD CL IT

ディスクI/Oを監視して変更ブロックを追跡 / 記録する増分バックアップのためのドライバー。記録された変更ブロック情報から増分バックアップを作成するため、増分バックアップの処理時間を短縮。増分バックアップファイルの増加による、バックアップ処理速度の低下を抑制。Windowsにおいては、従来のドライバーを使用しない方式を選択して使用することも可能。

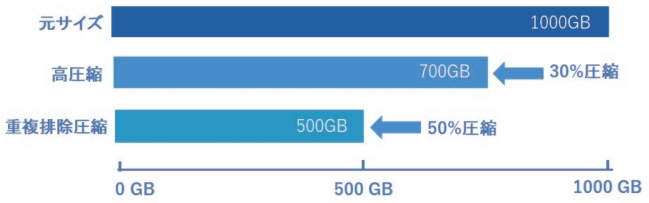


重複排除圧縮

SV DT LX VI SP CD CL IT

バックアップ時にデータブロックの重複を排除し圧縮することで、保存先の容量を約半分に節約。

※重複排除圧縮はCPUやメモリーの使用率が高くなるため、負荷が高いマシン環境では、処理時間、圧縮率ともにバランスのとれた［通常圧縮］を推奨



バックアップファイルの暗号化（AES256ビットに対応）

SV DT LX VI SP CD CL IT

パスワード保護と暗号化（AES256ビット）したバックアップファイルを作成。第三者による不正なアクセスから、バックアップファイル内のデータを保護するのに有効。

スケジュール バックアップ

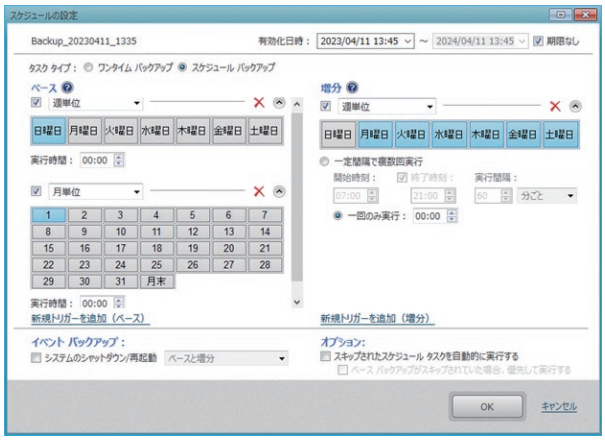
SV DT LX VI SP CD CL ○

バックアップの実行を、1回のみ / 週単位 / 月単位でスケジューリングしたり、特定の月 / 曜日に設定可能。初回のフルバックアップ以降は、増分バックアップのみ作成するスケジューリングも可能。

マルチスケジュール バックアップ

SV DT LX VI SP CD CL ○

1つのバックアップタスクに対して、複数のスケジュールを作成。
例：
通常は週単位のスケジュールで運用し、毎月1日だけはフルバックアップを作成するように設定。



バックアップと連動したスクリプトの実行

SV DT LX VI SP CD CL IT

スクリプト機能は、ユーザーがバックアップ時の各々のタイミングで、個別の処理を実行したい場合に有効。
例：
スナップショットを実行する前にデータベース等のキャッシュをクリアしたり、スナップショット実行後（実際のバックアップ開始前）にデータベースを再開することができる。バックアップ作成後にバックアップファイルをコピーしたり、加工することも可能。ベースバックアップと増分バックアップに対して、スクリプトを各々個別に作成することも可能。

USBスマートディテクト（再接続時の自動検出）

SV DT ○ VI SP ○ CL ○

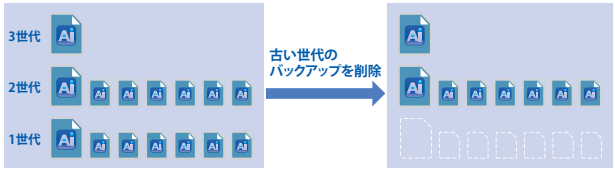
（Virtual / Server vPack はWindowsのみ）

保存先に指定したスケジュールが、USBハードディスクを外したためにスキップされた場合、USBハードディスクの再接続時にすぐにバックアップを実行。複数台のUSBハードディスクを使用している場合でも、自動的に追尾してバックアップを実行。

バックアップの世代管理

SV DT LX VI SP CD CL ○

保持するバックアップの世代数を指定することにより、バックアップ保存先の旧世代のバックアップを自動的に削除。バックアップ保存先の容量や保存期間のポリシー等を考慮して設定。



Oracleのオンラインバックアップ

SV DT LX VI SP CD CL IT

Oracleデータベースのサービスを停止することなくバックアップ。Windows環境では、Windowsに標準搭載されている VSS（Volume Shadow Copy Service）と協調し、Linux環境では、製品に搭載されている独自のバックアップスクリプトにより、オンラインバックアップを実現。

SQL Server、Exchangeのオンラインバックアップ

SV DT ○ VI SP CD CL IT

（Virtual / Server vPack / CloudはWindowsのみ）

Windowsに組み込まれているVSS（Volume Shadow Copy Service）と協調してホットイメージングを実行。SQL Server、Exchange ServerといったVSS対応のサーバーアプリケーションでは、整合性の高いバックアップが可能。

※Desktop：SQL Server のみ対応

MySQL / PostgreSQLデータベース対応

LX VI SP CD

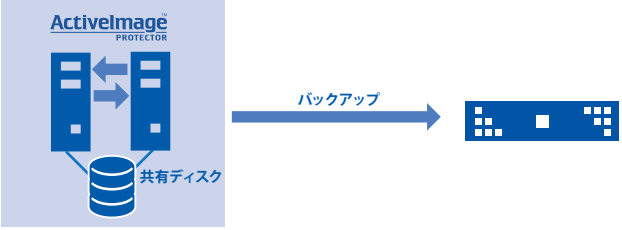
（Virtual / Server vPack / CloudはLinuxのみ）

バックアップ開始時に、MySQLやPostgreSQLデータベースを一時的に書き込み禁止にして、スナップショットを取得する仕組みを搭載。整合性の高いバックアップが可能。

クラスター共有ボリューム（CSVFS）の増分バックアップ

CL

クラスター共有ボリュームのスマートセクターバックアップ、増分バックアップが可能。フェイルオーバーしても別のノードで増分バックアップを継続。



VMware vSphereのFCD（First Class Disk）のサポート

SV VI SP

VMware vSphereのディスク形式、FCDの直接バックアップ / 復元に対応

バックアップ保存先

SV DT LX VI SP CD CL IT

- ActiveImage Protector™専用の保存先：Actiphy ImageServer™
- ローカルディスク
- ネットワーク共有フォルダー
- クラウドストレージ（Amazon S3 / Azure / Wasabi / S3互換）

SV VI CL

- LTOテープ

※保存先をLTOとした場合は、イメージ管理機能（BootCheck™、イメージ検証、結合、レプリケーション）は使用不可

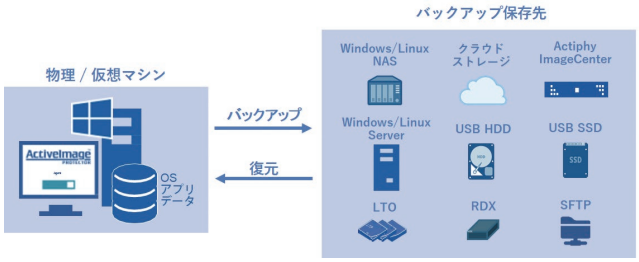
※Virtual：
ActiveImage Protector™のHyperAgentが導入された物理マシンのみ対応

SV DT LX VI SP CL IT

- USB接続のHDD / SSD / メモリ
- RDX（USB / iSCSI接続）

※Virtual / Server vPack：
仮想マシンでRDXカートリッジの自動イジェクト機能を使用する場合、iSCSI接続のRDX装置を利用

- SFTPサーバー



バックアップ オプション

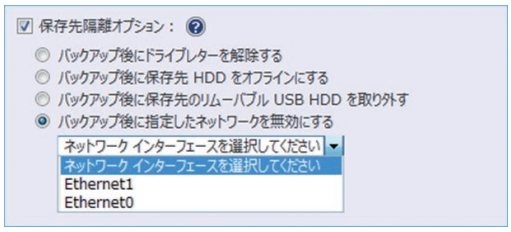
バックアップ完了後に保存先の隔離

SV DT LX VI SP CD CL

「保存先隔離オプション」で、バックアップ完了後に保存先ディスクをオフラインにしたり、ネットワークを遮断することが可能。ランサムウェア等のウイルス攻撃から保存先やバックアップファイルを保護し、隔離された保存先は、次回のバックアップ開始時に自動的に開放。隔離方法は以下の通り。

- 保存先ディスクからドライブレターの割り当てを解除
- 保存先ディスクをオフライン化
- リムーバブル USB HDDの取り外し
- バックアップ用LANのネットワークを遮断

※USB HDDを取り外した場合、自動で再接続しないため、手動でUSB HDD ケーブルを接続する必要あり



シャットダウン時の自動バックアップ

SV DT VI SP CD CL

（Virtual / Server vPack / CloudはWindowsのみ）

システムのシャットダウン / 再起動のタイミングでバックアップを実行。定期的なメンテナンスでの再起動で障害が発生しても、直前のバックアップから復元してシステムを復旧可能。

ポスト バックアップ プロセス
バックアップの起動確認 / 検証 / 結合 / レプリケーション（ローカル）：

SV DT LX VI SP CL

バックアップ完了後すぐに、あるいは指定した時間に、BootCheck™（バックアップの起動確認。詳細は後述の「イメージ管理」を参照）、レプリケーション、結合等、イメージに対する操作を実行。

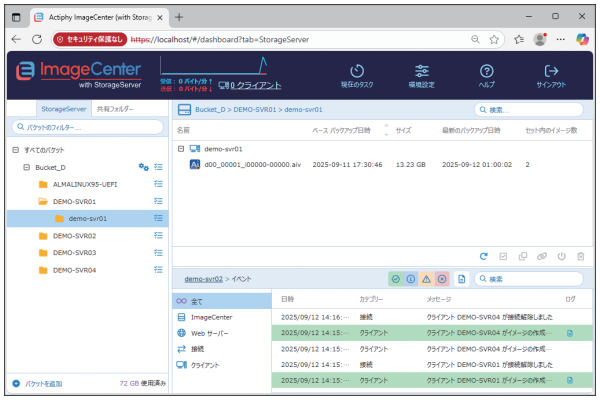
※オブジェクトストレージに保存されているバックアップは非対応
※Linux / Virtual / Server vPack：
BootCheck™（バックアップの起動確認）はWindowsのみ

Actiphy ImageServer™
バックアップの起動確認 / 検証 / 結合 / レプリケーション（リモート）：

SV DT LX VI SP CD CL IT

ActiveImage Protector™専用の重複排除機能を搭載したバックアップストレージに、イメージ管理機能を備えた統合型バックアップストレージ。独立した保存先としてバックアップ環境を構築可能。保存先と管理ツールの統合により、バックアップファイルの結合やレプリケーション等を一元的に実行。

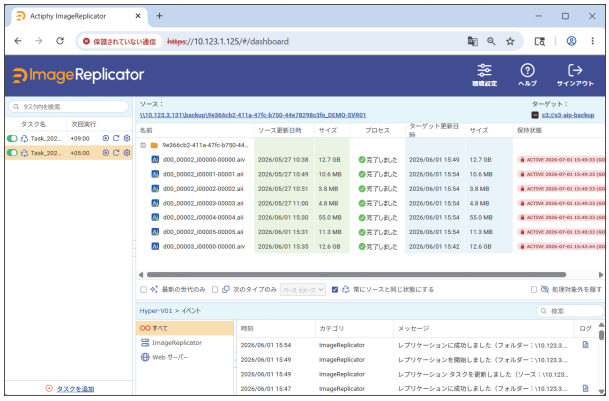
※オブジェクトストレージに保存されているバックアップは非対応
※Linux / Virtual / Server vPack / Cloud：
BootCheck™（バックアップの起動確認）はWindowsのみ



Actiphy ImageReplicator™
バックアップのレプリケーション（リモート）：

SV DT LX VI SP CD CL IT

ActiveImage Protector™で取得したバックアップを、別サーバーで自動レプリケーションする専用オプションツール。バックアップ元への負荷を抑えつつ、障害・人的ミス・ランサムウェア対策として安定した運用を実現。さらに、オブジェクトロックによりデータ改ざんや消失を防止し、安全性を強化。



バックアップタスクの負荷調整：スロットリング機能

SV DT LX VI SP CD CL IT

バックアップタスク時に利用するCPUの最大負荷を制御。

ネットワークの負荷調整：ネットワーク帯域制御機能

SV DT LX VI SP CD CL IT

ネットワーク共有フォルダーやクラウドストレージへのバックアップ時に利用する、ネットワーク帯域を制御。優先順位の変更やネットワークの使用帯域を制限して、業務タスクとバックアップ処理間でマシンリソースを効率的に配分。

コマンドライン実行

SV DT LX VI SP CD CL

コマンドラインやコマンドファイル内で、各種パラメーターを設定して起動。ユーザーが社内で運用管理ツールを使用している場合、ActiveImage Protector™によるバックアップを統合可能。

ディスクコピー

SV DT LX VI SP CD CL IT

（Virtual / Server vPack はWindowsのみ）

ディスク間で、データのコピーだけでなくボリューム単位のコピー、拡大コピーが可能。複数ディスクをコピー元としたレイアウトも作成できる。SSDへの移行、大容量ディスクへの交換等、幅広く対応。

例：

ディスク1のボリューム1と、ディスク3のボリューム1をコピー可能。

起動環境

LinuxベースのAIP起動環境を標準搭載

SV DT LX VI SP CL

製品メディア（DVDまたはISO）自体に、システムの復元やコールドバックアップ等の操作を実行するための、LinuxベースのAIP起動環境を標準搭載。

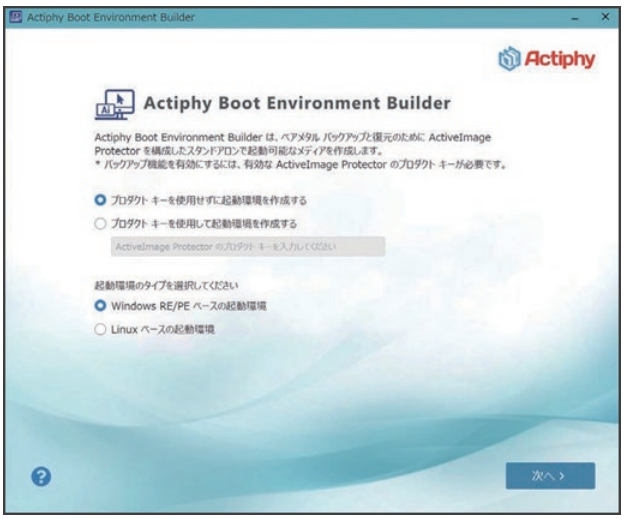
AIP起動環境作成ツール（Windows PE / REベース、Linuxベース）

SV DT LX VI SP CL IT

システムの復元やコールドバックアップ等の操作を実行する、起動環境作成ツールを提供。WindowsベースのAIP起動環境作成では、Windows OSに内蔵されているWindows RE（Windows 回復環境）を使用して、起動環境を作成。Windows ADKおよびWindows PEのインストールは不要。必要なドライバーも自動的に検出され、選択するだけで簡単に組み込み可能。光学メディアだけでなくUSBメモリ / HDD / SSD、ISO形式でも起動媒体として作成できるので、光学ドライブのないノートPCでも使用可能。

※Linux / Virtual / Server vPack：
Linuxマシンではwindows PEおよびWindows REベースのAIP起動環境は使用不可。LinuxベースのAIP起動環境を使用

※IT Pro：
IT Proは専用のAIP起動環境（IT Pro Creator）から作成を実行。Linuxベースの起動環境の作成には非対応



AIP起動環境のプリブート / クイック復元機能：QuickRecovery

SV DT VI SP CD CL

（Virtual / Server vPackはWindowsのみ）

起動時に自動的に復元環境を作成するため、起動環境のメディアを作成していなくても復元可能。復元環境の起動後に、リカバリーポイントの指定だけですぐに復元。ソフトウェア的な問題で復元する場合は、復元対象のマシンだけで完結するため短時間で作業終了。

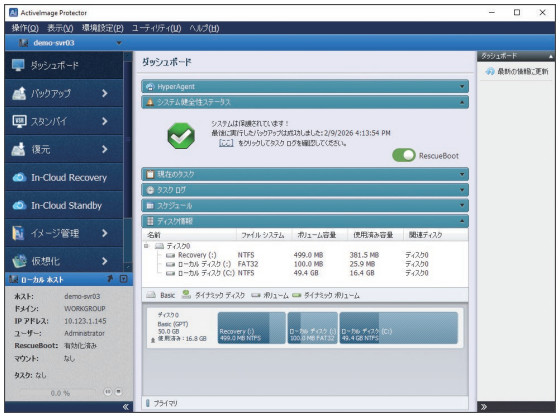


AIP起動環境のプリブート機能：RescueBoot™

SV DT LX VI SP CD CL

ワンボタンで次回起動時に、組み込みのActiphy Boot Environment（起動環境）が起動してシステムを復元。起動環境を内蔵ディスクから直接起動するため、起動環境用の外部メディアは不要。起動環境は、Windows RE、またはWindows ADKから選択できる。

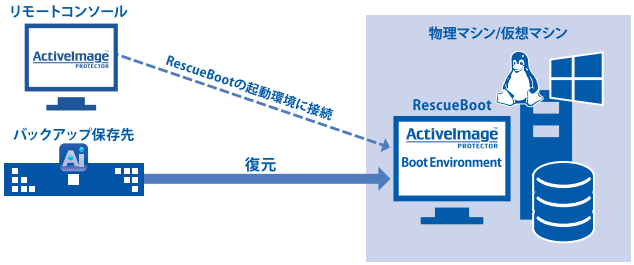
※Cloud：
Azure上の仮想マシンで使用する場合は、Windows ADKの導入が必要



RescueBoot™のリモート操作

SV DT LX VI SP CD CL

前述のRescueBoot™のリモート操作が可能。復元対象のマシンの前にいなくても、起動環境から復元作業を実行。



復元専用メディアの作成：Recovery Media Maker / IT Pro Creator

SV DT VI SP CL IT

（Virtual / Server vPackはWindowsのみ）

対象マシンのバックアップファイルを組み込んだ、復元専用メディアを作成。復元専用メディア単体で復元できるため、復元時にネットワークが使用できず共有フォルダーに接続できない場合や、USBメディアが持ち込めない現場でも復元作業が可能。



復元専用メディアの復元操作



復元

ベアメタルリカバリー（B.M.R）

SV DT LX VI SP CD CL IT

バックアップから新しいハードディスクへ復元する場合でも、高速な復元エンジンにより短時間で完了。ベアメタルディスクに対しての初期化とパーティションの作成も可能。

ディスク / ボリューム単位の復元

SV DT LX VI SP CD CL IT

OS、アプリケーション、各種設定、データを含めたディスク、またはボリューム全体を、一括で復元。システム障害やディスク故障時でも、バックアップ取得時の状態を迅速に再現。

ファイル / フォルダー単位の復元

SV DT LX VI SP CD CL IT

バックアップから、復元したいファイル、フォルダーを指定して復元。また、アクセス権等のパーミッション情報やストリーム情報を復元することも可能。システムがクラッシュした際、特定のファイルだけを復元すれば業務を再開できるような場面で有効。

ボリュームサイズを指定した復元

SV DT VI SP CD CL IT

（Virtual / Server vPack / CloudはWindowsのみ）

ボリューム単位の復元では、ボリュームサイズを拡大または縮小して復元可能（NTFSのみ）。バックアップ元より小さいサイズのディスクへ復元する際、ボリュームサイズの縮小やレイアウト変更等、柔軟な対応が可能。

異なる物理マシンへの復元：A.I.R機能

SV DT VI SP CL IT

（Virtual / Server vPackはWindowsのみ）

バックアップから別のハードウェア構成の物理マシンへの復元に対応。Actiphy Boot Environment（Windows PEベースの起動環境）に搭載されているA.I.R（Architecture Intelligent Restore）により、復元の際に、適合したストレージコントローラーのドライバーを組み込むことで起動可能。

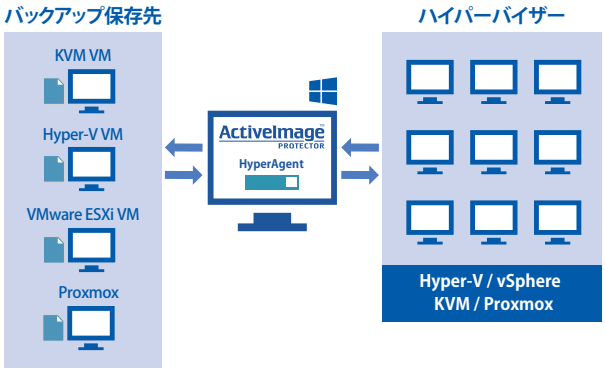
異なるハイパーバイザー上の仮想マシンへの復元：HyperRecovery™

SV VI

バックアップから、新規仮想マシンの作成、元の仮想マシンへの復元、異なるタイプのハイパーバイザー環境への復元が可能。

※Virtual：
エージェントベースでLVM構成のLinuxマシンから取得したバックアップは非対応

異なるタイプのハイパーバイザーにも復元可能



クラウド（AWS / Azure / Google Cloud / Oracle Cloud）の仮想マシンへの復元：In-Cloud Recovery / RescueBoot™

SV VI SP CD

復元に使用する起動環境メディア不要で、同一VLAN内の別インスタンスから起動環境を起動（In-Cloud Recovery）、または復元対象のインスタンス内に作成した起動環境から直接起動（RescueBoot™）し、バックアップからシステム復元が可能。

※Google Cloud Platform（GCP）、Oracle Cloud Infrastructure（OCI）環境の仮想マシンの復元作業は、RescueBootから起動した起動環境を使用

Hyper-Vホスト全体のバックアップから仮想マシン毎の復元：ReZoom It!

VI

（Windowsのみ）

Hyper-Vホスト全体のバックアップから、仮想マシンを個別に任意のHyper-Vホストへ復元。同一あるいは異なるHyper-Vホスト上、更にリモートのHyper-Vホスト上へも復元可能。

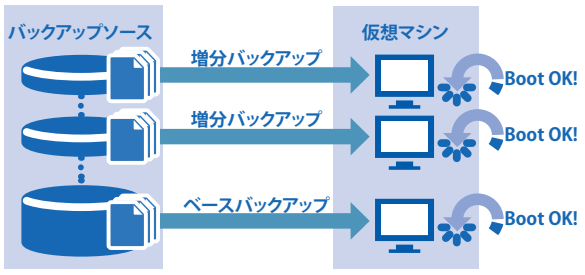
イメージ管理

バックアップの起動確認：BootCheck™

SV DT VI SP CL

（Virtual / Server vPackはWindowsのみ）

ローカルのHyper-Vやネットワーク上のHyper-Vホストを使って、バックアップが確実に起動できる状態であることを、即座にテストする機能。バックアップからハイパーバイザー上で仮想マシンとして直接起動できるので、低リソース・短時間で起動確認が完了。ActiveImage Protector™コンソールの［イメージ管理］から手動でも実行できるため、任意のタイミングで起動確認が可能。

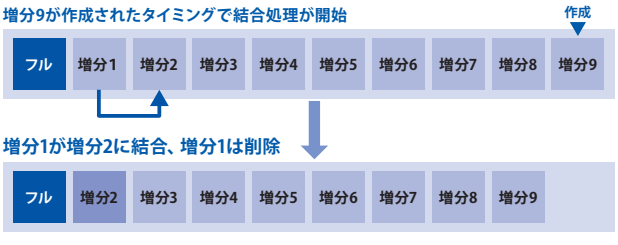


増分バックアップの結合

SV DT LX VI SP CD CL IT

増分バックアップの継続によるバックアップファイル数の増大は、各処理のパフォーマンスに影響するため、増分バックアップの結合をスケジュールで実行して負荷を軽減。

例：
増分バックアップを7つ残す設定では、増分9のバックアップが完了した際に、古い順に増分1と増分2が結合される。この結合済みの増分を除く7つの増分が常に保持される。



バックアップの検証

SV DT LX VI SP CD CL IT

バックアップファイルの整合性をチェックサム等で検証し、復元処理が問題なく実行できるか確認。障害発生時にも、安全かつ迅速な復元作業を実行。

バックアップのアーカイブ作成

SV DT LX VI SP CD CL IT

増分バックアップとフルバックアップ（ベースバックアップ）を合わせて、別の1つのバックアップファイルに統合して保存。



バックアップの同一性確認（MD5計算）

SV DT LX VI SP CD CL IT

バックアップファイルをコピーした場合等、元ファイルとコピー先のMD5を取得して照合することで、データの同一性を確認。障害発生時にも、安全かつ迅速な復元作業を実行。

バックアップの削除

SV DT LX VI SP CD CL IT

保持するバックアップの世代数を指定して、バックアップ保存先の旧世代のバックアップを自動的に削除。バックアップ保存先の容量や保存期間のポリシー等を考慮して設定。

バックアップをドライブとしてマウント

SV DT LX VI SP CD CL IT

バックアップファイルをドライブとしてマウントすることができ、バックアップファイル内のファイルやフォルダーを個別に復元可能。また、書き込み可能としてマウントした場合は、変更部分を差分ファイルとして保存できる。

バックアップをエクスプローラーで展開

SV DT VI SP CD CL

（Virtual / Server vPack / CloudはWindowsのみ）

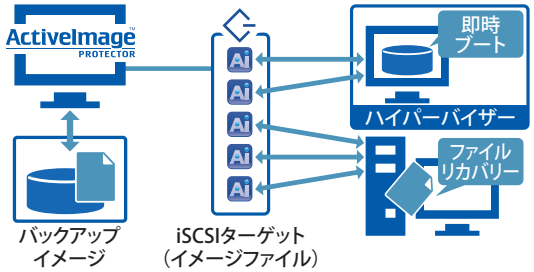
バックアップファイルをWindowsエクスプローラーで直接開くことができ、通常のエクスプローラーの操作で、バックアップファイル内のフォルダーやファイルごとに復元することが可能。

バックアップからiSCSI、NFS ターゲット サーバーの作成

SV VI SP CL

（Virtual / Server vPackはWindowsのみ）

バックアップファイルをiSCSIまたはNFSサーバーとして設定。作成されたiSCSIサーバーに、iSCSIイニシエーターで接続することによりiSCSIディスクとして扱うことができる。また、NFSサーバーにNFSクライアントからVMDKとしてアクセスでき、このVMDKをVMware vSphere等の新規仮想マシンに接続すると、バックアップから直接システムを起動することが可能。



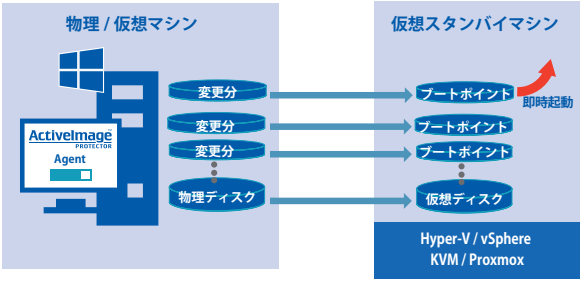
即時復旧

ディスクから仮想スタンバイ（待機）マシンの作成：vStandby™

SV DT VI SP

（Virtual / Server vPackはWindowsのみ）

Microsoft Hyper-V、VMware vSphere、Linux KVM、Proxmoxの仮想環境上に、物理 / 仮想マシンのディスクから待機用の仮想マシン「仮想スタンバイマシン」を構成し、スケジュールでディスクの変更状態をブートポイントとして追加。緊急時には、この「仮想スタンバイマシン」から即座に起動（実測値で約2分程度）して、再稼働が可能。



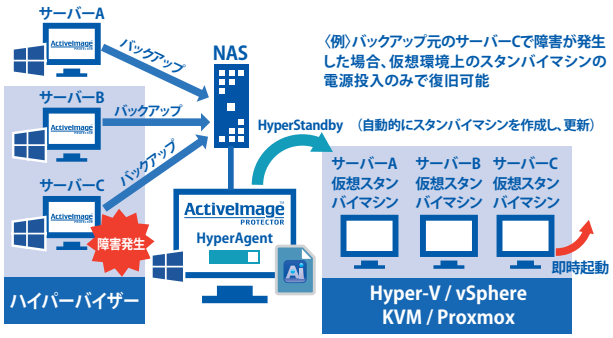
バックアップから仮想スタンバイ（待機）マシンの作成：HyperStandby

SV VI SP

バックアップからMicrosoft Hyper-V、VMware vSphere、Linux KVM、Proxmoxの仮想環境上に「仮想スタンバイマシン」を構成し、スケジュールで日々のバックアップをブートポイントとして追加。元のサーバーに障害が発生した場合には、この「仮想スタンバイマシン」から即座に起動（実測値で約2分程度）して、再稼働が可能。

※Virtual / Server vPack：
LVM構成のLinuxマシンから取得したバックアップは非対応

※Virtual：
ActiveImage Protector™のHyperAgentが導入されたマシンでのみ使用可能

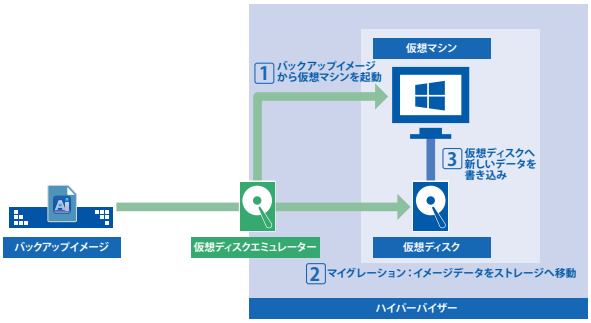


ゼロタイムリカバリー：HyperRecovery LIVE!

SV VI

復元が開始されると、バックアップファイルから直接仮想マシンとして即時に起動。稼働しながら、バックグラウンドで実際の復元対象の仮想ディスクへ復元を実行。復元完了後には、そのまま実稼働状態になるため、実質、復元時間はなし。

※Virtual：
LVM構成のLinuxマシンから取得したバックアップは非対応

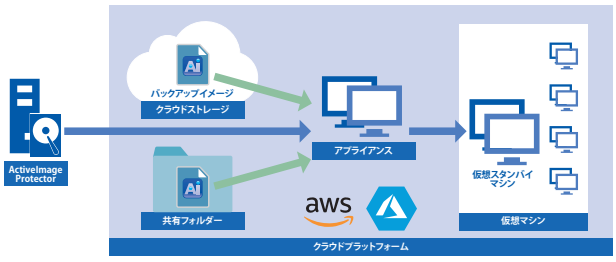


バックアップからクラウド上にスナップショット作成：In-Cloud Standby

SV VI SP CD

（Virtual / Server vPack / CloudはWindowsのみ）

クラウドからアクセス可能なストレージに保存されているバックアップから、スケジュールでクラウド上にスナップショットを作成。緊急時には、スナップショットからボリュームを作成して仮想マシンにアタッチし、即座に起動してクラウド上で運用を再開することが可能。

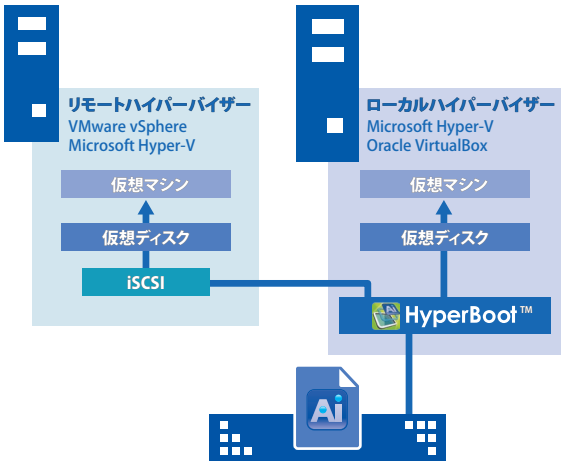


バックアップから直接仮想マシンを起動：HyperBoot™

SV DT LX VI SP CD CL IT

バックアップファイルを復元や仮想変換をせずに、直接仮想マシンとして即座（数分以内に）に起動。一時的な代替マシンとしての役割を果たすので、障害が回復するまで暫定的にマシンとしての使用が可能。ランサムウェアの感染からの復旧の際には、復元する前にバックアップの安全性を確認することもできる。リモートとローカルのMicrosoft Hyper-V、VMware vSphere、Oracle VirtualBoxで動作可能。また、vCenterで起動した仮想マシンを、vMotionを使って本番環境に移動することで、仮想マシンとしてリストアを完了。

※Linux / Virtual / Server vPack / Cloud：
LVM構成のLinuxマシンから取得したバックアップは非対応



仮想化

バックアップ / ディスクから仮想マシン作成、VHDX / VMDK/ QCOW2へ変換

SV DT VI SP CL IT

（Virtual / Server vPackはWindowsのみ）

バックアップファイルや物理ディスクを仮想環境に移行するユーティリティで、仮想ディスクフォーマットへの変換を実行し、その際、仮想マシンで起動するように処理。VMware vSphereのVMDK形式、Microsoft Hyper-VのVHDとVHDX形式、Linux KVMのQCOW2形式への変換が可能。

バックアップに仮想マシンのドライバーの組み込み（仮想化パッケージ）

SV DT VI SP CL IT

（Virtual / Server vPackはWindowsのみ）

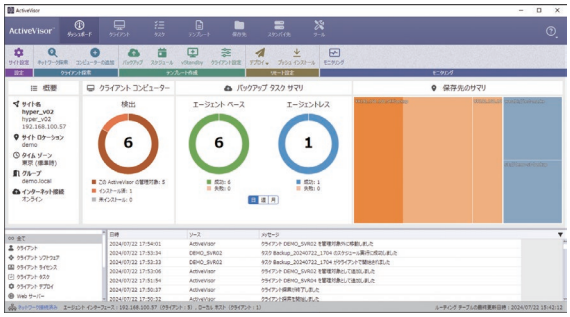
既存のバックアップファイルに仮想マシンのドライバーを組み込み、ActiveImage Protector™の差分ファイル（.aix）として作成。この差分ファイルは、そのままVMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Linux KVM、Proxmox の仮想マシンに復元して起動可能。

管理と監視

統合管理コンソール：ActiveVisor™

SV DT LX VI SP CL

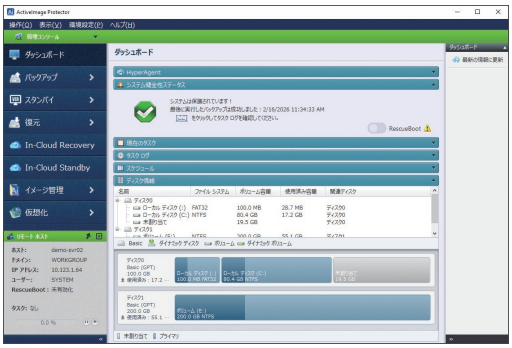
ネットワーク上の、複数のActiveImage Protector™エージェントがセットアップされたコンピューターを一元管理。管理対象コンピューターの自動検出から、ActiveImage Protector™のプッシュインストール、バックアップタスクのテンプレート作成（設定ファイルのひな形）や展開、バックアップステータスの一覧管理、管理対象コンピューターのActiveImage Protector™エージェント情報、ハードウェアのインベントリー情報の取得、ActiveImage Protector™エージェントへのリモート操作等、総合的に管理。



リモート管理コンソール

SV DT LX VI SP CD CL

ActiveImage Protector™のエージェントがセットアップされたコンピューターをリモートから管理。ネットワーク上の複数のエージェントのバックアップタスク状況や、スケジュールされているバックアップタスク等、実行可能。



タスクの成功 / 失敗 / 終了のメール通知

SV DT LX VI SP CD CL

スケジュールバックアップの成功、または失敗に関する情報を、メールで通知するように設定。タスクの概要やライセンス（使用期限）の通知も可能。SSL / TLSが必要なメールサーバーに対応。

アップデート通知、オンラインアップデート

SV DT VI SP CD CL

（Virtual / Server vPack / CloudはWindowsのみ）

オンラインでライセンス認証している場合、製品のアップデートを確認できる。コンソール、または通知領域アイコンから確認して、利用可能なアップデートのダウンロードとアップデート処理が可能。

タスクをWindowsイベントログに記録（監視ツールとの連携）

SV DT VI SP CD CL

（Virtual / Server vPack / CloudはWindowsのみ）

すべてのタスクをWindowsイベントログに記録。レプリケーションタスク等、バックアップ以外のタスクで発生した成功・失敗イベントを取得して、適切なワークフローを実現。

株式会社 アクティファイ　〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町8番 NCO神田紺屋町
TEL：03-5256-0877　FAX：03-5256-0878　https://www.actiphy.com　sales@actiphy.com

© 2026 Actiphy, Inc. All rights reserved. ActiveImage Protector、vStandby、Actiphy ImageServer、Actiphy ImageReplicator、HyperBoot、ReZoom It!、BootCheck、ActiveVisor、RescueBoot、HyperAgentは、株式会社 アクティファイの商標です。Microsoft、Windows、Windowsロゴは、米国および諸外国におけるMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。その他のブランド名および製品名は、それぞれ帰属する所有者の商標または登録商標です。